

<p>第1 中期目標の期間及び教育研究上の基本組織</p> <p>1 中期目標の期間 中期目標の期間は、平成28年4月1日から平成34年3月31日までの6年間とする。</p> <p>2 教育研究上の基本組織 次のとおり、学部及び大学院を置くものとする。 工学部：機械工学科、電気工学科、応用化学科 大学院：工学研究科</p>	<p>第2 教育研究等の質の向上に関する目標</p> <p>1 教育に関する目標</p> <p>(1) 教育の内容及び教育の成果等の充実 教育課程の編成・実施の方針を実現するために、学生が身に付けるべき学習成果を学位授与の方針として具体化・明確化し、学生の学習到達度の確な把握・測定を通して、卒業認定を行う組織的な体制を整える。</p> <p>(2) 教員の教育能力向上の推進 設置基準に沿った教員数の確保と、教育活動に必要なバランスが配慮された構成に努める。また、教育点検・改善、教員評価や研修による教員の資質・能力向上に継続的に取り組んでいく。</p> <p>(3) 学生の受入れに関する方針 入学受入方針を明確にし、入学受入等を選抜等を公正かつ適正な方法により実施して、入学受入の方針に応じた学生の受入れを推進する。</p>
<p>2 学生への支援に関する目標</p> <p>(1) 多様なニーズに対応した支援 学生が経済的に安定した環境で学修に取り組みやすいよう適切な支援を行う。また、学生に対する健康相談、心的相談、生活相談等を適切に行うとともに、学生支援に対する学生の意見等を汲み上げる仕組みを整備し、学生支援の改善に反映する。</p>	<p>○教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)の明確化 ・段階的な知識修得の支援 「一般科目」:一般的な素養を深める 「基礎科目」:工学分野における各専門分野の基礎をなす 「専門科目」:専門家としての能力を養う</p> <p>○教育課程の体系的編成及び教授方法の工夫・開発 ・学修支援計画表(シラバス) ・学修計画表(ポートフォリオ) ・基礎科目における習熟度別少人数クラス授業 ・基礎科目における四半期性(クォーター制)の導入 ・英語における少人数クラス授業 ・JABEE認定プログラムの導入 ・チューター制の導入 ・学修サポート教室の導入 ・ピアサポート制度の導入 ・キャリア科目の充実 ・地域関連科目の充実 ・TOEIC、インターンシップ、課外活動での単位認定 ・山口県立大学、山口学芸大学との相互単位互換 ・授業アンケートの実施 ・研究授業の実施</p> <p>○学修及び授業の支援 ・入学前教育 ・入学後教育(勉学勧告・進路変更勧告基準) ・TA(Teaching Assistant)等の活用による学修支援 ○教育目的の達成状況の評価とフィードバック ・FD委員会による取り組み ・GP(Grade Point)による評価の実施</p> <p>○単位認定、卒業・終了認定等 ・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)の明確化</p> <p>○教育目的及び教育課程に即した教員の確保と配置 ○教員の資質・能力向上への取り組み ・教員採用・商人 ・教員評価(多面的人事評価制度の導入) ○教養教育実施のための体制整備 ・FD活動 ・共通教育センターの設置(総合教育の実施ほか)</p> <p>○入学受入方針(アドミッション・ポリシー)の明確化と周知 ○入学受入方針に沿った学生受入方法の工夫 ・一般入試(A方式・B方式) ・推薦入学 ・特別推薦 ・2・3年次編入学 ・大学院入試</p> <p>○入学定員に沿った適切な学生受入数の維持</p> <p>○学生生活支援と厚生補導全般に関する組織体制について ・学生支援委員会 ・新入生オリエンテーション委員会 ・学生相談室 ・事務部学生支援グループ ○学生に対する経済的支援について ・各種奨学金による支援 ・学内アルバイト支援 ・学生宿舍の運用、奨学アパルト制度 ・専用無料スクールバス運行 ○学生の課外活動支援について ・体育会本部、文化会本部を設置し、所属する公認団体の活動支援や活性化を図る ・スポーツ大会実行委員会 ・竜王祭実行委員会 ・新聞会</p> <p>○学生に対する健康相談、心的支援、生活相談等について ・保健管理センター ・定期健康診断 ・傷害補償制度 ・学生相談室 ・ハラスメント防止委員会</p>

<p>(2) キャリア支援の充実 学生が自らの職業観、勤労観を培い、社会的・職業的自立を図るために必要な社会基盤力を身に付けることができるよう、キャリア教育と就職・進学に対する相談及び助言体制を整備するなど、教育課程の内外に渡る支援を充実するとともに、地域の要請に応えた取組を促進する。</p>	<p>3 研究に関する目標</p> <p>(1) 研究活動の活性化 先端科学・技術研究を推進するための研究者の自主的な独創性のある研究や、組織の枠組みを超えて戦略的に行う共同研究に加え、地域課題の解決や地域の特性をいかした研究を更に促進する。</p> <p>(2) 研究成果の集積と公表 産学官連携によって大学からの技術移転を促進するとともに、その成果を内外に発信する。</p> <p>(3) 学術交流の促進 国内外の大学及び研究機関との交流の充実を図り、学術情報の相互交換、共同研究等を推進する。</p> <p>(4) 研究倫理の徹底 不正行為を事前に防止し、公正な研究活動を推進するために、研究者に求められる倫理規範の修得を通して、その徹底を図る。</p>	<p>第3 地域社会との連携、地域貢献に関する目標</p> <p>1 地域コミュニティの中核的存在としての拠点化 「知(地)の拠点」(地域コミュニティの中核的存在)として、生涯学習の学びの場を提供すると共に、社会ニーズに沿った社会人教育を展開し、地域再生・活性化の拠点として地域貢献を図る。</p>	<p>2 産業界との連携 産学官の連携によって大学からの技術移転を促進するとともに、新商品の開発や新しい産業・技術を創出できるような環境の整備を図る。</p>	<p>3 政策形成等に貢献するシンクタンク機能の発揮 様々な地域の課題に対して、大学の持つ知的・人的資源を活用し、その解決に向けた調査研究や政策形成に寄与する役割を担う。</p>	<p>4 学生の地元定着 地域を支える課題探求能力と問題解決能力を備えた人材育成に努め、市内及び県内企業への就職支援を促進する。</p>
<p>○社会的・職業的自立に関する指導のための体制の充実 ・(教育課程内)キャリア基礎、キャリア開発Ⅰ・Ⅱ、リーダーシップ論、地域産業論インターンシップ ・(教育課程外)企業研究セミナー、キャリアコンパス講座 ・公務員受験・民間企業就職対策コース ・大学院における「キャリア指導」「技術マネジメント」 ○資格取得の支援 (機械工学科)・高等学校教諭一種免許状(工業) ・修習技術者 ・技術士補 ・機械設計技術者 ・エネルギー管理士 ・CAD利用技術者 (電気工学科)・高等学校教諭一種免許状(工業) ・電気主任技術者 ・無線技術士 ・基本情報技術者 ・修習技術者 ・技術士補 (応用化学科)・高等学校教諭一種免許状(理科) ・修習技術者 ・技術士補 ・中学校教諭一種免許状(理科) ・修習技術者 ・技術士補 ・危険物取扱者 ・毒物劇物取扱責任者 ・環境計量士 ・公害防止管理者 ○卒業生の県内就職割合の向上</p>	<p>○液晶研究所 ○先進材料研究所 ○研究成果書(論文等)のデータベース化による集積 ○学術機関リポジトリを活用した積極的な公表 ○海外の大学との「科学技術交流協定」締結による事業展開</p>	<p>○多様な学習機会の提供 ・社会教育支援(リカレント教育、各種市民講座等の実施) ・サイエンスミュージアムの創設 ○地域の学校等との連携(小・中・高) ・学校教育支援(ほんものの科学実験講座、かがく博覧会、サイエンスクラブ創設) ・高大連携 ○地域活性化への支援 ・ポランディアセンター窓口設置(地域イベントや清掃活動への協力ほか) ・地域連携協議会の設置 ・住民の自主的・主体的な取組みの支援 ○大学資源の活用と開放 ・図書館連携(相互利用) ・施設開放</p>	<p>○共同研究・受託研究等による産業振興支援 ・共同研究 ナノ粒子の媒体中における分散及び安定性の評価に関する研究 有機無機ハイブリッド熱電材料の開発 フレキシブル有機熱電変換素子等の開発 やまぐちグリーン部材クラスター ・オーブンラボ(研究室の開放) ・技術相談窓口の開設 ・研究分野の開拓やマッチングの促進 ○山口県医療関連産業クラスター構想への貢献 ・医療関連成長戦略推進会議へ加入</p>	<p>○政策課題解決に資する調査研究の推進 ・行政等の委員参画 ・商工会議所常議員 ○地域の諸課題の解決に寄与する共同研究等の推進 ・高齢化対策事業の構築 公共交通網の再構築 福祉・介護及び医療機器に対する調査研究開発 ・スマートエネルギーの利用拡大 ・環境保全、地域資源の活用 ・ICTを活用した観光案内の構築 ・エンジニアリングデザインツールとファブラボ活用によるものづくり高度化の支援</p>	<p>○キャリア教育の必修化 ○地域指向科目:地域学、インターンシップ、地域産業論、リーダーシップ論 地域社会学、地域技術学 ○卒業生の県内就職割合の向上</p>

第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 運営体制の改善に関する目標

大学設置の目的を達成するために定款で定める役員及び審議機関を置き、運営の仕組みとしての体制を構築し、経営と教学のコミュニケーションを円滑に保ちながら、迅速に意思決定を行える組織の確立を図る。

(1) 業務執行体制の強化

業務遂行の管理体制(目標管理制度、事業評価等)を構築し、理事長及び学長のガバナンスを含む権限の適切な分散と、責任の明確化に配慮した組織編成及び業務の効率的な執行体制を確保する。

○理事長、学長を中心とする機動的な運営体制の構築
○簡素で機能的な組織の編成

・経営審議会、教育研究審議会

※27年度現在の各種会議体

・理事会、常務理事会、評議員会、大学運営協議会、学長室会議
・学部長主任会議、教授会、教授総会、大学院研究科会議

・財務委員会、教員人事委員会

・教育開発センター

・ものづくり工房

・教育支援センター

・地域連携センター

○経費の抑制

(2) 人材育成の強化

法人の自律的な運営を支える教職員を育成するため、計画的に人材を採用し、教職員の資質・能力向上のための組織的な研修に取り組みむとともに、成果に基づき人事考課制度を適正に運用する。

○適切な人事評価

○計画的な職員の採用と配置

○事務職員の職能開発

(3) 開かれた大学づくりの推進

大学の活動内容が広く住民に周知され、地域社会の要請が大学運営に適切に反映されるよう、大学に関する情報の積極的な提供、外部の有識者等が大学運営に参画する仕組みの充実など、地域に開かれた大学づくりに資する取組を進める。

○大学に関する情報の積極的な提供

○外部有識者等が大学運営に参画するしくみの充実

・民間企業経験者や卒業生、地域の代表などの登用

・教育研究や地域貢献推進に関して学外から広く意見を聴く機会の設定

・同窓会との効果的な連携

(4) 評価制度等の活用による業務運営の改善に向けた継続的な取組の推進

自己点検・評価、評価委員会による評価などの評価制度や監事による業務監査を活用し業務運営の改善に向けた継続的な取組を進める。

(5) 他の教育機関等との連携

教育の質の保証や、研究活動の促進、高度化する大学運営の諸課題を組織的かつ適切に処理するため、国内外の大学・研究機関等との学術交流や学生の相互交流をはじめとした機能的かつ有意義な連携・交流を深める。

○東京理科大学との姉妹校連携

○他の高等教育機関との連携

・東京理科大学・諏訪東京理科大学・セント州立大学との学術的教育的連携の維持

・山口県立大学・山口学芸大学との3大学連携協定

・やまぐち大学コンソーシアムなどによる連携医事

2 教育研究組織の見直しに関する目標

(1) 教育研究組織の見直し

大学が、その特色を生かしつつ、学問の進展や社会の要請に対応し、より効果的、効率的な教育研究活動を行うことができるよう、教育研究組織について、必要に応じ適切な見直しを行う。

(学部・学科)

・機械工学科

・電気工学科

・応用化学科

・共通教育センター

(大学院)

(2) 薬学部設置

西日本の公立大学で初となる薬学部を設置(平成30年4月を目標)に向けて、提携先である学校法人東京理科大学と連携し、取り組んでいく。

(学部・学科)

・薬学部(薬学科、薬科学科)

3 人事の適正化に関する目標

(1) 教職員にインセンティブが働く仕組みの確立

能力、意欲及び業績が教職員の処遇等に適切に反映される制度を導入することにより教職員にインセンティブが働く仕組みを確立し、教職員の資質の向上、ひいては教育研究の活性化に資する。

(2) 全学的な視点に立った公正、公平で客観的な制度の構築

学部の枠を超え、全学的な視点に立った戦略的、効果的な人事を行うことができ、公正性、透明性及び客観性が確保される制度を構築する。

○業務の見直し

・事務処理の簡素化、合理化

・外部委託の活用

・業務マニュアルの作成

・情報化の推進

○事務組織の見直し

○外部研究資金の積極的導入

○受託研究等の負担区分の見直し

○その他自己収入の確保に向けた取組みの推進

第5 財務内容の改善に関する目標

1 自己収入の増加に関する目標

定員確保による学生納付金のほか、外部資金の獲得などに積極的に取り組み、自主財源の安定的確保により、健全な法人運営を行うための経営基盤の強化を図る。

(1) 授業料等学生納付金

授業料をはじめとする学生納付金は、法人の業務運営における最も基礎的な収入であることを踏まえ、法人収支の状況、社会情勢等を勘案し、適正な料金設定を行う。

(2) 外部研究資金等の積極的導入

法人の収入の大部分は授業料等学生納付金と運営費交付金とで占められているが、これに加えて、教育研究の水準のさらなる向上を目指し、外部研究資金等の導入に努める必要がある。このため、科学研究費補助金をはじめとする競争的研究資金の獲得や、産学官連携、地域連携による共同研究、受託研究に積極的に取り組む。また、受託研究等に当たっては、研究に必要な事務費を適正に計上するなど負担区分について見直しを行う。

<p>2 経費の抑制に関する目標 地域に支えられた大学であることを踏まえ、自立的な大学運営を行うに当たり、予算の彈力的、効率的な執行、管理的業務の簡素化、合理化、契約方法の改善などにより、経費の適正化を図る。また、教育研究の水準の維持向上に配慮しながら、組織運営の効率化、適正な人員配置等を進める。</p>	<p>3 資産の管理及び運用に関する目標 教育研究の水準の向上の観点に立って、資産の有効かつ効率的な活用に努め、適正な維持管理を図るとともに、地域貢献活動の一環として、教育研究に支障のない範囲で、大学施設の地域開放を促進する。 また、知的財産権の保護と効果的・効率的な民間への技術移転の推進のため、本学発の特許の申請や利用促進等について、積極的な取組みを行う。</p>
<p>第6 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標 教育研究及び組織運営の状況について自己点検・評価を定期的の実施するとともに、外部委員の意見を反映させるなど、その内容、方法の一層の充実に取り組み。また、評価結果については、速やかに公表するとともに、法人が、業務運営の改善に取り組んでいる状況を住民に開示する。</p>	
<p>第7 その他業務運営に関する重要目標</p>	
<p>1 施設設備の整備、活用等に関する目標 教育研究、地域貢献等に関する長期的な見通しの下で、既存施設の活用を含めて、教育研究、情報基盤等の高度化、多様化に対応した施設の機能についての検討を行い、全学的な見地から全ての施設の効率的・弾力的な運用を促進する。</p>	<p>○自己点検・評価を実施する体制の整備 ○自己点検・評価の内容・方法の充実 ○評価結果の公表</p> <p>○教育研究環境の向上に向けた施設設備の整備 ○学術情報基盤の計画的な整備</p>
<p>2 安全衛生管理に関する目標 教育研究活動の円滑な実施に資するため、教職員、学生の安全と健康の確保に関する取組を総合的かつ計画的に行うとともに、継続的にその水準の向上を図ることができ仕組みを確立する。</p>	<p>○総合的な安全衛生管理体制の整備 ○安全衛生管理活動に関する実行計画の作成と実施及び評価 ○環境負荷の低減の推進</p>
<p>3 法令遵守及び危機管理に関する目標 大学人として求められる研究倫理や社会規範の厳守等の法令遵守及び危機管理に資する内部統制の充実・強化に取り組み、その成果を業務運営に反映させる。</p>	